

加茂地区の世帯・人口

世帯数 2,397 世帯
人口 4,850 人
男 2,430 人
女 2,420 人
令和3年2月1日現在

かま福祉だより

令和3年3月1日発行
第14号

発行者
加茂地区社会福祉協議会
事務局
吉沢学園交流棟
市原市吉沢117番地

年頭のごあいさつ

会長 花澤 廣吉

新春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

旧年中は、加茂地区社会福祉協議会にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

令和2年度は新型コロナ禍で、予定されていた事業がすべて中止となりましたが、令和3年度においては、いきいきサロンや加茂地区敬老会の事業が無事に開催されるように願っております。

市原市は令和3年度より、地域共生社会推進プランがスタートします。

当協議会としては、地域包括ケアシステム構築に向け、地区内の4施設のご支援・ご協力を得て新たに【地域密着型相談事業】を実施します。また、加茂地区町会長会を中心とした【加茂地区災害対策本部】がスタートします。

人口減少、高齢化の進む中で、お互いに支え合いながら、より良い加茂地区を構築するために努力する所存であります。地域の皆様には、今後も変わらぬご理解・ご協力を願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

地域密着型相談事業

令和3年度より相談事業開始



加茂地区の皆さん、「うちのおばあちゃんが最近もの忘れが始まった。」「オレオレ詐欺のような電話がかかってくるようになった。」「財産管理が出来なくなってきた。」などの心配ごとはございませんか？ そんな時どこに相談したらよいか困っていませんか？

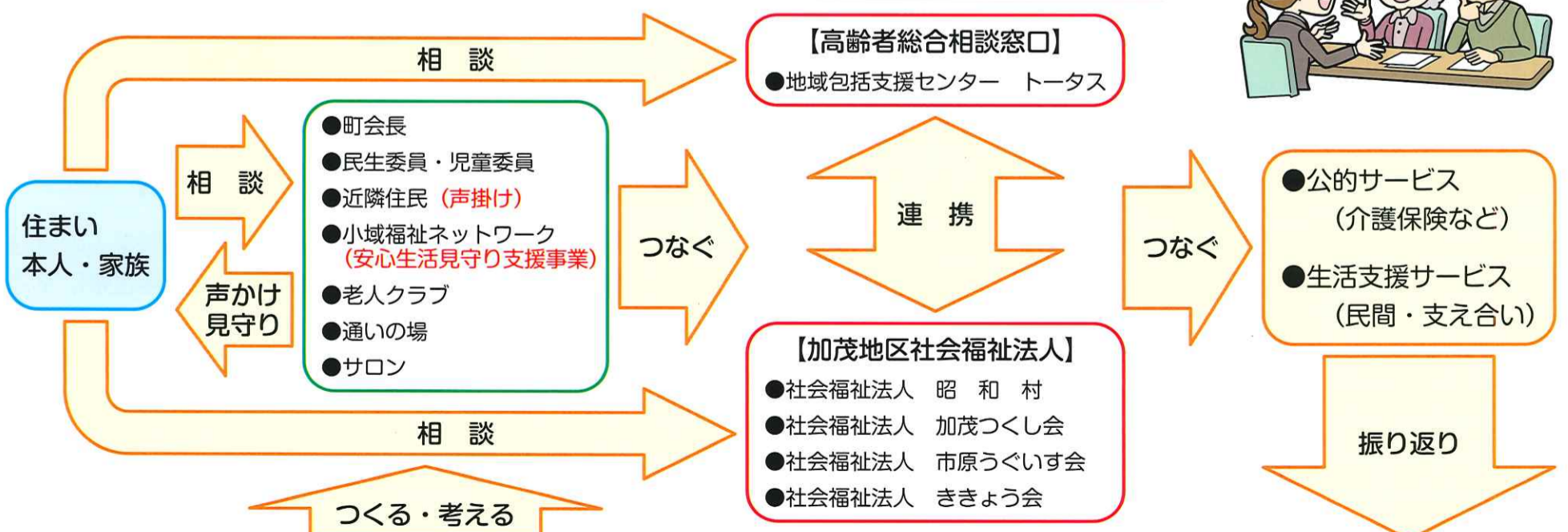
私たち加茂地区社会福祉協議会は、直接市役所や警察には電話をしにくいと言う加茂地区の皆様の声をお聞きしました。そこで、加茂地区の福祉施設の皆様にお話し、相談窓口を福祉施設に開設する事に致しました。

福祉施設の窓口には看板を掛けさせていただき、また町会の回覧版などで皆様にお知らせしていく予定ですが、緊急事態宣言が発令され、なかなか思うようにいきません。しかし、新年度から新しい事業を開始できるように準備を進めておりますので、今しばらくお時間を頂戴いたしたいと思っております。

安心・安全で人にやさしい加茂地区をつくる為に、皆様に寄り添う加茂地区社会福祉協議会を目指し出来る事を少しずつやっていきたいと思っております。

皆様のご理解、ご協力をお願い致します。

加茂地区「見守り支え合う」包括ケアシステムのイメージ図 住民主体の支え合いの創出



加茂地区協議体・SCは…(普段から)

ニーズ/課題把握・ネットワーク構築・必要な仕組みの検討

敬老会事業

令和2年度加茂地区敬老会事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とさせていただいた代わりに、75歳以上の対象者全員に町会を通じて記念品を贈らせていただきました。併せて、下記のとおり、たくさんのご意見を頂きありがとうございました。

つきましては、このご意見の結果をもとに、今後の敬老会事業及び高齢者を対象とする各種事業の参考にさせていただきたいと存じます。

ご意見等の一部を紹介させていただきます。



記念品について……アンケート、ご意見、感想など

- 記念品をいただきありがとうございました。
- 年々体力が衰えて敬老会には参加できないのですが、今回のような記念品を頂き、大変ありがとうございました。そして年寄りを大事にしてくれる気持ちが嬉しいです。
- お礼の言葉を頂きました。昨年は台風、大雨時の対応について感謝の言葉を頂きました。
- 日持ちするお茶でよかった。
- 現場（敬老会）に行けないので、今回の対応はうれしいです。



日常生活について……気づいた点や心配な点など

- 高齢者一人暮らしの世帯が数戸あります。急な体調変化や怪我などが心配です。また、最近高齢者を狙う詐欺も増えているので気を付けてほしいです。
- 買い物等へ出かける交通手段のないのが心配です。
- 以前、年寄りで会食、お茶飲み等していたのですが、最近はなくなってきたように思います。
- 昨年の災害から1年を経過し高齢者の迅速避難が可能か。
- コロナ感染が心配です。
- 独居のおばあさんがいるので見守りが必要と思われる。

加茂地区小域福祉ネットワーク

白鳥地区

会長 椎名 正

白鳥地区の皆様、明けましておめでとうございます。

一昨年の台風15号、19号それに豪雨水害、昨年は新型コロナウイルスと生活環境を取り巻く状況は厳しく、生活様式がすっかり変わってしまいました。

その中で白鳥地区小域福祉ネットワークでは、地域の皆様誰もが安心して暮らせる「支え合い」「助け合い」のある地域づくりを目指していきたいと思っております。

- ① 白鳥地区における地域福祉活動の推進
- ② 子供たちへのあいさつ、声掛け運動
- ③ 安心生活見守り支援事業の取り組み
- ④ 推進委員会の会議「年3回」開催予定

まだまだ新型コロナ禍、感染者が増え続けております。皆様におかれましては、「マスクの着用」「こまめな手洗い」「三密を避ける」「感染しない、させない」を心がけて生活していただければ幸いです。

地域の皆様には、今後も変わらぬご理解・ご協力をお願い申し上げます。

高滝地区

会長 宮原 誠一

旧高滝小学校区で活動するそれぞれのボランティアグループ11団体の代表とネットワークに賛同する方々併せて53名で「高滝小域ネットワーク」は構成されています。

主な活動は高齢者と子どもたちの登下校の見守りです。会議には加茂学園や高滝駐在所にも参加していただき、学校や地域の現状を紹介していただいております。コロナ禍で十分な時間は取れなかったものの、高滝地区の情報交流の場として定期的な開催を心がけています。

これからも地域の人たちの「安心と安全」を趣旨とし「学習や情報交換」を積極的に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

富山地区

会長 中村 直樹

地域の課題解決や福祉ニーズに取り組んでいる当福祉ネットワークは、昨年10月31日に「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため二班に分けて、市原市地域包括支援センター「トータス」の方に講師をお願いし、31名の参加者で実施しました。

令和3年度も、地域にお住いのあらゆる世代の方が、安心して生活できる地域社会づくりを目指し、「地域防災計画の策定」等に取り組んでまいります。

地域の皆様には、今後も変わらぬご理解・ご協力をお願い申し上げます。



里見地区

会長 佐藤 有一

令和2年度の事業は、生活安心訪問員による独居老人の見守り事業と新型コロナウイルス感染拡大防止として、全世帯にマスク30枚を配布いたしました。

しかし、新型コロナウイルス感染症により私たちの行動が制限され、談笑ができない、旅ができない、運動不足に陥るなど快活な生活ができなくなっております。

令和3年度は、安心安全な生活ができるよう見守り事業を継続するとともに、感染症から自分の命・家族の命を守る新しい生活様式を身に着けるための支援事業をしていこうと考えております。

地域の皆様には、今後も変わらぬご理解・ご協力をお願い申し上げます。